

梨の花

市川市立稲荷木小学校

〒272-0024 市川市稲荷木1-14-1 Tel 376-5961

<http://www.toukagi-syo.ichikawa-school.ed.jp>



みんなちがって、みんないい

校長 清田 博之

1学期も折り返しを過ぎました。新年度になってからの学校生活も軌道に乗ってきた頃ですが、大きな行事が一つ終わるとエアポケット状態になって事故やトラブルが起きやすくなります。それに対し、子どもたちの「心の安全を守る」観点から、本校では、「いじめアンケート」や「先生と話そう週間（1週間とは限りませんが…）」に取り組んでまいります。わたしからもZOOMを使って全校児童に「いじめ」についてよびかけをしました。とても大切なことなので、改めて話の内容をご家庭・地域の皆様にもお知らせします。ご家庭でも「いじめ根絶」に向けてお子さんと話をしていただければと思います。

わたしが両手をひろげても、お空はちっともとべないが、
とべる小鳥はわたしのよう、地面（じべた）をはやくは走れない。
わたしがからだをゆすっても、きれいな音はでないけど、
あの鳴るすずはわたしのよう、たくさんうたは知らないよ。
すずと、小鳥と、それからわたし、みんなちがって、みんないい。



金子みすゞ

「わたしと小鳥とすずと」

この詩の題名は、金子みすゞさんの「わたしと小鳥とすずと」です。
最後は「と」で終わっています。「と」のあとに何か続きそうですね。

私は、「みんな」と続くのではないかと思います。今、みんなの隣にいる友達、前や後ろにいる友達、この学校にいる人は、誰一人同じ人はいません。顔も性格も違ってきます。そんな一人一人が、みんなが大事で、大切です。それが「みんなちがって、みんないい」ということではないでしょうか。そんなふうに考えて仲良くしていけば、いじめなどはなくなっていきます。

いじめは絶対にしてはいけないことです。いじめてるつもりがなくても、ふざけて人をたたいたり、人の物をとったり、たくさんの人が同じ人に悪口を言ったりいやなことをしたり、一人であっても何度も何度もしつこく言ったりしたら、それは**いじめ**です。

いじめは、いじめる側が100%悪いのです。みんなの迷惑になることをしたり、注意してもやめられなかったりしたことが、悪口や仲間はずれ、いじわるなどをする理由になるでしょうか。誰にでも欠点があります。「いじめ」がその欠点を直すことにつながるなんて、絶対にありません。「いじめ」は物事を解決する手段には決してならないのです。

いじめは「**しない」「させない」「見逃さない**」

みんなの力で、みんなが大切にされる「みんなちがって、みんないい」学校にしていきたいと思います。

もし友達とのことやお家でのことなどでつらい思いや悲しい思いをしていたら、決して一人で悩まずに、担任の先生や稲荷木小の先生方に相談しましょう。保健室や「ゆとろぎ」の前には、「こころの相談ポスト」が置いてありますので、相談したいことがある人は利用してください。

6月上旬の学校の様子から



6月1日 6年縄文体験

6年生は社会科の歴史学習の一環として、市川考古博物館の学芸員さんをお招きして「縄文体験」学習を実施しました。例年であれば、実際に土器や狩猟に使用していた石器等に触ったり、当時の方法で火をおこしてみたりといった体験をたくさんするのですが、コロナ禍でそれは叶いませんでした。しかし、視覚的にわかりやすい資料等で説明をしていただき、子どもたちは当時の生活に思いをはせていました。



6月2日 1年手洗い指導

1年生は、養護教諭の石原先生に「手洗い」の仕方について指導を受けました。

まず、ウイルスはどうやって体の中に入ってくるか、また、どのような機会に入りやすいのか、そして、自分の「手洗い」の癖について知りました。よく洗ったつもりでも、ブラックライトに充てると、「洗い残し」が結構あることに、子どもたちは驚いていたようです。



6月7日 2年「虫取り」

2年生は生活科の学習の一環として江戸川河川敷に「虫取り」に行きました。

バッタやモンシロチョウなどを見つけては、「いたー！」と元気に追いかける子どもたち。中にはヤゴの抜け殻といっためずらしいものを見つけた子どももいました。

子どもたちにとって、身近にある自然に親しむ良い機会になったようです。